



未来を夢見て Season 2

2021/7/7 No. 87

教師は授業で勝負する～第1回全校授業を終えて 4年生『走れ』～

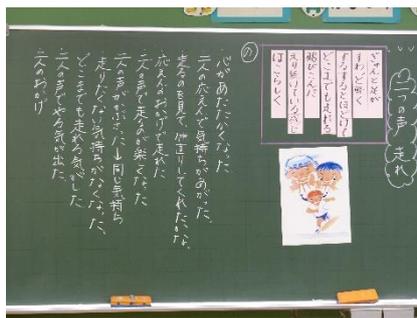
7月7日（水）朝から雨模様。今夜は星を眺めることは難しいようですが、もみじ学級さんの前に七夕飾りがお目見えしました。素敵な飾りと丁寧に書かれた短冊の願い事にしばし時間を忘れて眺めさせていただきました。

7月6日（火）。4年4組で、校内の授業研究が行われました。昨年度はコロナ禍で人数制限の中での授業研究会でしたが、今年は昨年度よりもたくさんの先生方が授業を参観することができました。改めて先生方が授業に高い関心をもっていることがわかりました。そして何よりたくさんの先生方に囲まれて、子供たちにとっては、最高の「舞台」が用意されました。授業研究の最大の効果は子供たちが「見られる」ことにあると思います。



4年4組にוות、まず感心したのは子供たちの集中度。学級全体がしんとした空気の中で、子供たちは猪股先生の指示に集中し、教材文に線を引いたり、先生の発問に応えたりしながら、授業は心地よい緊張感の中で静かに進んでいきます。子供たちの集中度を支えているのは、もちろん研究としての手立てが有効であることは間違いありませんが、私には別の要素もあるように拝見していました。

それは、猪股先生の「学級づくり」の素晴らしさです。4年4組の子供たちと猪股先生の距離がとても近く感じられ、子供たちのつぶやきやうなずきなどの一つ一つの反応の様子から子供たちが開放的な雰囲気の中で安心して授業に取り組んでいることが伝わってきました。



今日の子供の姿を見た先生方のほとんどが、（こんな子供たちに育てたい、こんな子供たちと授業をしたい）と思ったのではないのでしょうか。もちろん私もその一人です。

そしてもう一つ強く感じたのは、4年生の先生方のチームワークの素晴らしさです。特に専科で関わっている津代先生、靖子先生の昨年度からの極め細やかな指導が子供たちに行き届いて、規律ある集団の中で、伸びやかに個性を發揮している子供たちに成長していることを授業の姿で感じさせていただきました。4年生の先生方本当にお疲れ様でした。

さて、右下の写真は、安田先生と小室先生がしゃがみこんで熱心に授業の様子を記録している様子です。新任の小室先生には、尊敬する安田先生の一挙手一投足が生きた手本となって目に写っているのかもしれませんが。何でも勉強ですね。

（文責：手代木）